

ディケンズ・フェロウシップ日本支部

The Dickens Fellowship of Japan

2016年度春季大会

ディケンズ・フェロウシップ日本支部

Spring Conference 2016

Programme

日時：2016年6月18日（土） Date: 18 June 2016

会場：近畿大学 東大阪キャンパス EキャンパスA館 3階 301号室

(大阪府東大阪市小若江3-4-1)

Venue: Room 301, Third Floor, A Bldg., E Campus, Higashi-osaka Campus,

Kindai University, 3-4-1 Kowakae, Higashi-osaka City, Osaka

理事会 Board of Trustees Meeting (14:00 – 14:30) EキャンパスA館 2階 第1会議室

開 会 Opening Address (14:35 – 14:40)

佐々木 徹 (ディケンズ・フェロウシップ日本支部長) Toru SASAKI

(President, The Dickens Fellowship of Japan)

講 演 第 一 部 Lectures (14:40 – 16:20)

司会： 松岡 光治 (名古屋大学) Mitsuharu MATSUOKA (Nagoya University)

1. 井原 慶一郎 (鹿児島大学) Keiichiro IHARA (Kagoshima University)

『クリスマス・キャロル』の新訳について

On A New Translation of *A Christmas Carol*

2. 畑田 美緒 (大阪大学) Mio HATADA (Osaka University)

Fact・Fancy・Masculinity—— *Hard Times* に見る困難な中年期

Fact, Fancy and Masculinity: Troubled Midlife in *Hard Times*

講 演 第 二 部 Lecture (16:40 – 17:40)

Some Features of Wordsworthian Autobiography

– and Some Dickensian Applications

司会： 玉井 史絵 (同志社大学) Fumie TAMAI (Doshisha University)

講師： デイヴィッド・チャンドラー (同志社大学) David CHANDLER (Doshisha University)

懇親会 (18:00 – 20:00) Convivial Party

会場：KURE (大学本館 地下1階)

会費：一般5,000円、学生3,000円

講演 第一部 Lectures

『クリスマス・キャロル』の新訳について

鹿児島大学教授

井原 慶一郎

現在文庫等で入手可能な『クリスマス・キャロル』の翻訳を読んでもみると、驚くべきことに、ほとんどの訳でスクルージが改心したのち、精霊たちとの関係を絶ただけではなく、「絶対禁酒主義」あるいは「節欲の心」で生活したことになっている。原文は、“He had no further intercourse with Spirits, but lived upon the Total Abstinence Principle, ever afterwards.” ディケンズがこの作品の公開朗読をおこなった際に使用した朗読台本では“... but lived in that respect upon the Total Abstinence Principle” というように文言が追加されたので、元のままではやや意味が分かりにくい箇所かもしれないが、作品全体の肯定的なアルコール飲料への言及や伝記的な事実（ディケンズの反 teetotalism の態度）などを考えれば、「絶対禁酒主義」を奨励しているのではないことは、絶対に間違いようのないところだ。こういったところからも、はたして日本語で正しく『クリスマス・キャロル』が読まれているのかどうか怪しくなってくる。本講演では、新訳を出版するに至った経緯、出版の意図、訳の特徴などについて話してみたい。

Fact・Fancy・Masculinity—— *Hard Times* に見る困難な中年期

大阪大学教授

畑田 美緒

Hard Times で提示される“Fact”と“Fancy”の2つの対照的な世界、あるいは価値観は、一見すると相反するもののように思われるが、この小説は両者の対立よりもむしろ、両者がいかに密接な関係を持っているかを暗示しているように思われる。そして、主要な登場人物は複雑に絡まり合ったこれら2つの世界に、それぞれのやり方で関わりを持ち、反応を示す。興味深いことに、2つの絡み合う世界は、主要な人物（その多くは中年の男性である）の抱えている問題とも密接な関係を持っている。本発表では *Hard Times* における2つの世界を、作品中で直接姿を現すことのない Sissy の父親の存在を手がかりに、中年期の男性が経験する masculinity の危機、という観点から再考してみたい。

講演 第二部 Lecture

Some Features of Wordsworthian Autobiography – and Some Dickensian Applications

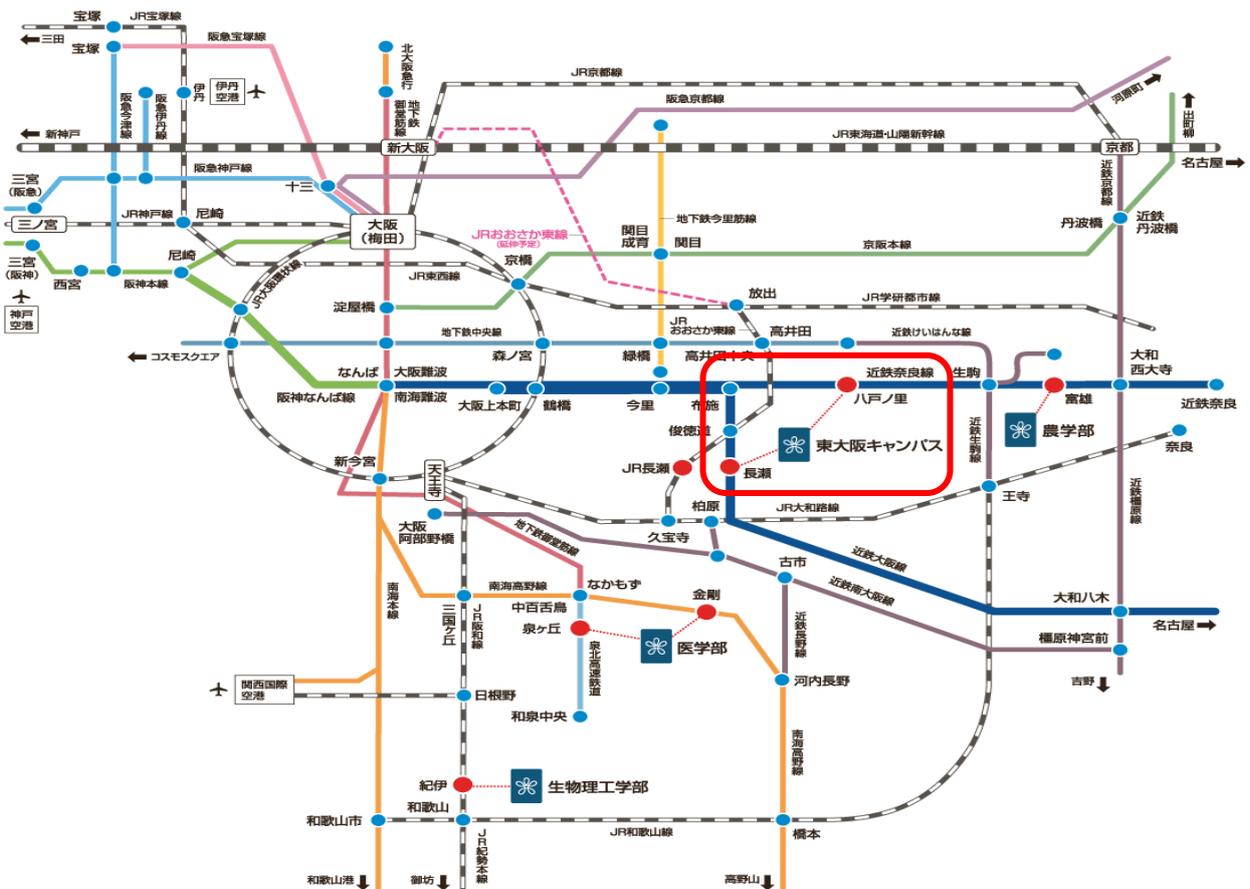
同志社大学教授

David Chandler

William Wordsworth was more insistently and compulsively autobiographical than any previous British writer of importance and he has had an immeasurable influence on how the business of growing up is understood, imagined and written about. This talk will look at some of the key features of Wordsworthian autobiography, especially its concerns with loss, dislocations, and the imaginative power of “spots of time,” and make some suggestions as to how some powerful passages in Dickens can be read in the light of Wordsworthian ideas.

アクセスマップ

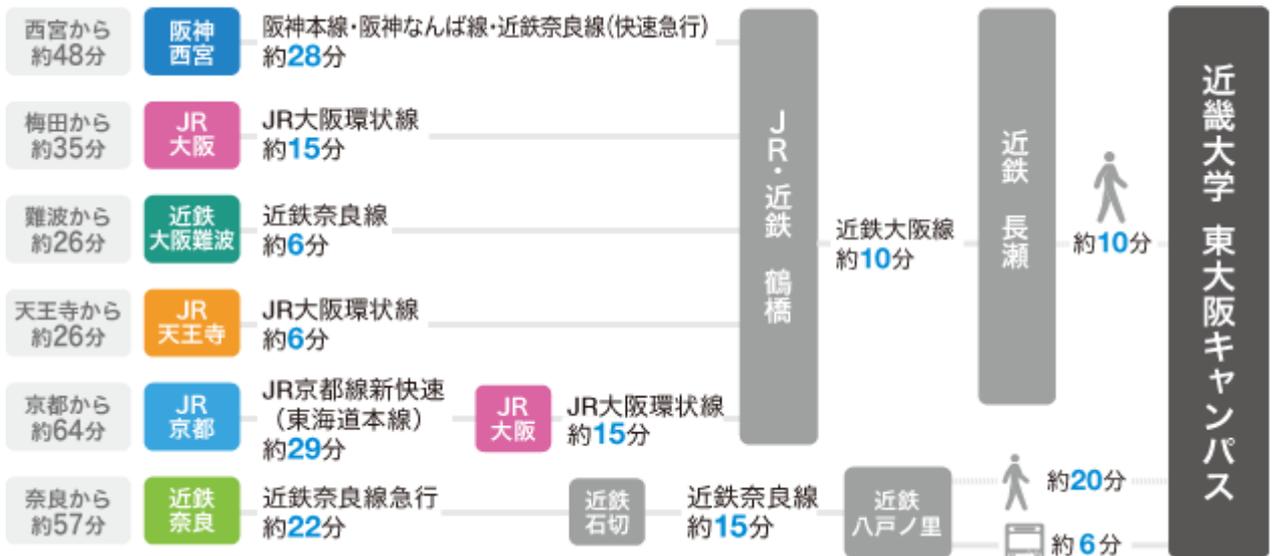
■ 路線図



【住所】

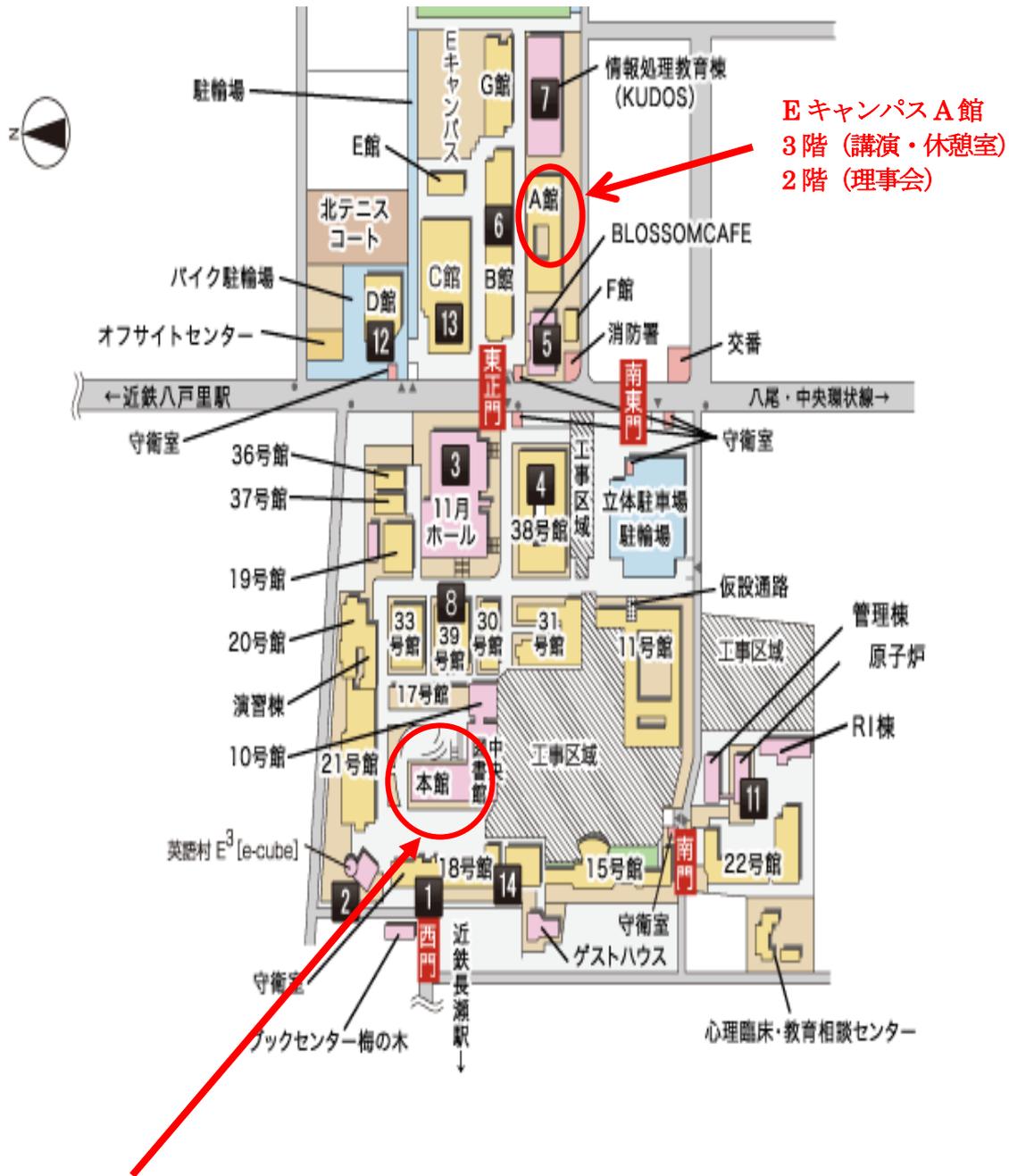
577-8502 大阪府東大阪市小若江 3-4-1 Tel: 06-6721-2332(代)
 3-4-1 Kowakae, Higashi-osaka City, Osaka, 577-8502 Japan

【交通アクセス】



*今回の大会は E キャンパスで行われるため、八戸ノ里駅からのアクセスが便利です。八戸ノ里駅からは通常の近鉄バス(71/76/77番系統:金物団地前・久宝寺口駅前行き)に乗り、東上小阪バス停下車)の他、近畿大学東門行きまでの100円シャトルバスが出ております。シャトルバスの時刻表は以下のリンクをご参照ください。
<http://www.kintetsu-bus.co.jp/route/kindai/index0401.html>

キャンパスマップ



大学本館地下 1 階

KURE (懇親会会場)